

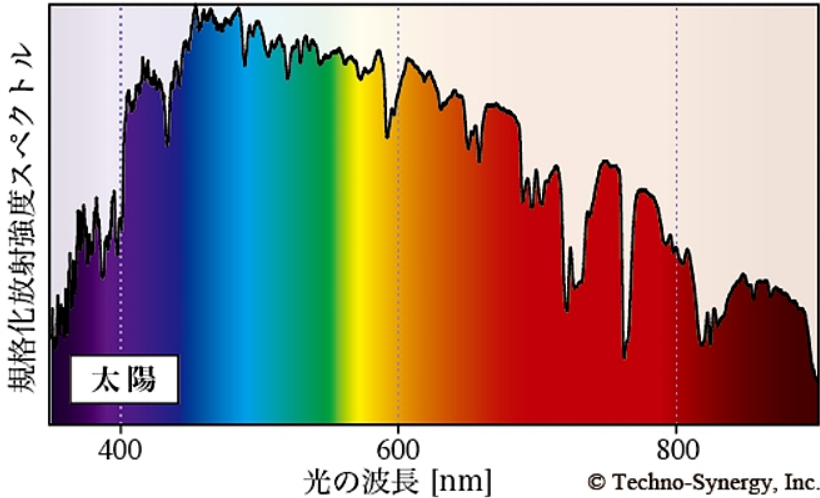
傷の修復の仕上げにはOpn3が受容する青色光が必要である

◆皮膚に生じた傷を出来るだけ早く治すには**太陽光**を当てるのが最も良い。何

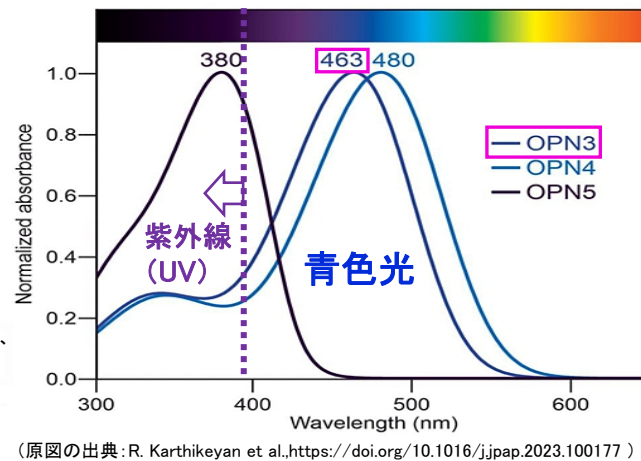
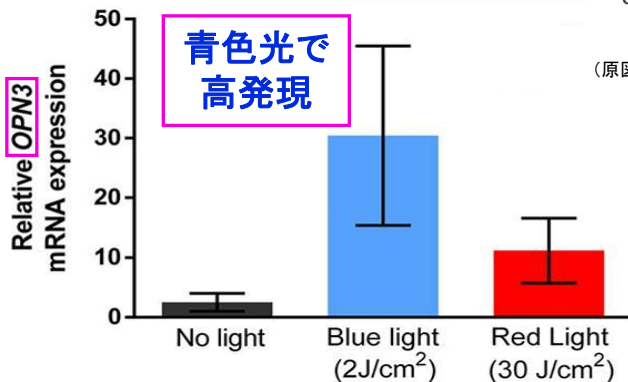
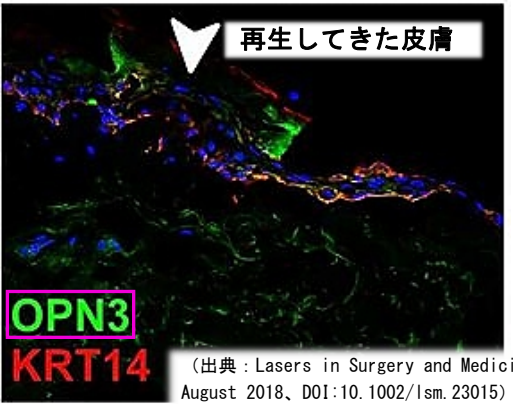
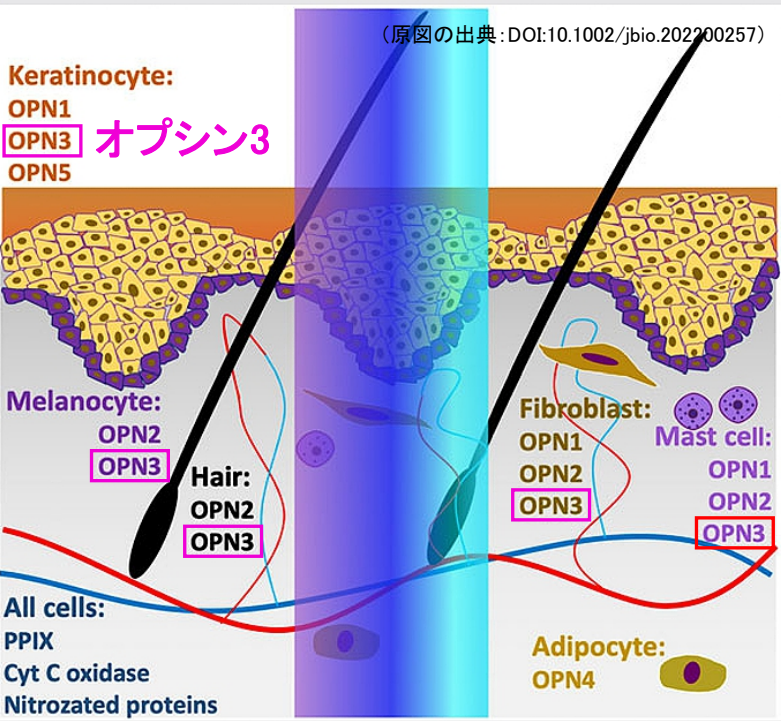
故なら、太古から陸上動物が行ってきた方法であり、治癒を進めるための基本条件になっているから。

◆科学的な理屈をつけるなら、太陽光には、創傷治癒を全体的に促進させる**遠赤外線**、**近赤外線**、**赤色光**、そして治癒の最終段階を促進させる**青色光**が多量に含まれているからである。

◆ただ、日光に曝すことが出来ない現代人においては、まずは**遠赤外線～赤色光**を当て、やがて傷口が塞がる段階に入れば**青色光**を当てることで、日光の代替にすることが出来る(もちろん、太陽光には劣るが…)



<作成:stnv基礎医学研究室>



◆青色光が傷修復の最終段階で重要な理由は、光受容タンパク質の1つである**オプシン3 (Opn3)**が創傷部の閉塞を促進する役割を担っているからである。

◆**オプシン3 (Opn3)**は脳をはじめとした全身の器官や組織に多く発現しており、皮膚においても然りである。そして、**青色光**を受容することによって、その数を増し、担っている役割を進めることになる。

◆傷の部分に光の通らない被覆材などで覆っておくと傷の治りが遅くなるため、最小限にすべきである。